

小金井公園における3か年の来園者行動調査の報告

～継続しやすい調査計画の検討及びGISによる利用行動の可視化の試み～

1. はじめに

小金井公園は、小金井市・小平市・西東京市・武蔵野市にまたがる都立公園である。開園面積は約80haで、都立公園の中では3番目に大きく、週末には主に多摩地域に暮らすファミリー層が多く訪れる。小金井公園の指定管理者である東京都公園協会は、2020年からの新型コロナウイルス感染症拡大下、公園利用の密対策として、園内放送や掲示等での呼びかけ、SNSで混雑状況や空いている時間帯や場所などのおすすめ情報の発信など様々な利用分散・誘導のアクションを行ってきた。

本稿では、2021年度より小金井公園が利用分散・誘導のアクションと並行して行ってきた、3か年の来園者行動調査について報告する。

2. 来園者行動調査を始めた経緯と調査概要

従来、来園者の動向は季節や天候により変化しており、公園管理もそれに応じた経験則によるものが大きかった。しかし新型コロナウイルス感染症拡大による人々の生活スタイルや関心対象の変化から、公園の存在価値が見直されるとともに、来園者の局地的な集中が見られるなど利用動向も劇的に変化し、公園管理側にも「新しい生活様式」に応じた対応が問われ始めた。そのため、まずは来園者の動向を客観的に把握しようと、来園者行動調査を企画し、継続的にデータ収集を行ってきた。

調査計画にあたっては、(1) 通常業務の負担とならない、(2) 調査エリアを4か所に限定、(3) GISを活用した調査結果のフォーマット化といった視点をもって、コストをかけずに、効率的に進めることができる調査方法と調査結果のまとめを心掛けた。調査エリアは、利用の傾向から、①宿根草園、②いこいの広場、③わんぱく広場、④つつじ山広場の4か所とした(図-1、表-1)。調査は主に日常の状況を把握するため、悪天候やイベント開催日を避け、調査エリアを14時頃から約1時間で巡回し、観察できた行動・人数・位置等を記録した。

3. 2021年の来園者行動調査の結果

2021年の12月の休日の来園者行動調査の結果をGISデータにおとし、来園者の動向を可視化した(図-2)。来園者が多かった調査エリアは②いこいの広場、③わんぱく広場であった。②いこいの広場では、ピクニックの利用者が駐車場に近い南側園路付近に集中しており、大型遊具のある③わんぱく広場は最も密に利用されている。④つつじ山



図-1 調査エリア位置図

| 調査エリア | 面積 | 特性 |
|---------|--------|----------------|
| ①宿根草園 | 約0.8ha | 花壇、休憩舎あり |
| ②いこいの広場 | 約4.4ha | 芝生広場。駐車場至近 |
| ③わんぱく広場 | 約0.7ha | 大型遊具あり |
| ④つつじ山広場 | 約3.3ha | 芝生広場。一隅に大型遊具あり |

表-1 調査エリア概要

広場では、遊具のある位置のみ局所的に来園者が集中しているが、広場の大半は利用されていない。①宿根草園の利用は最も少なかった。

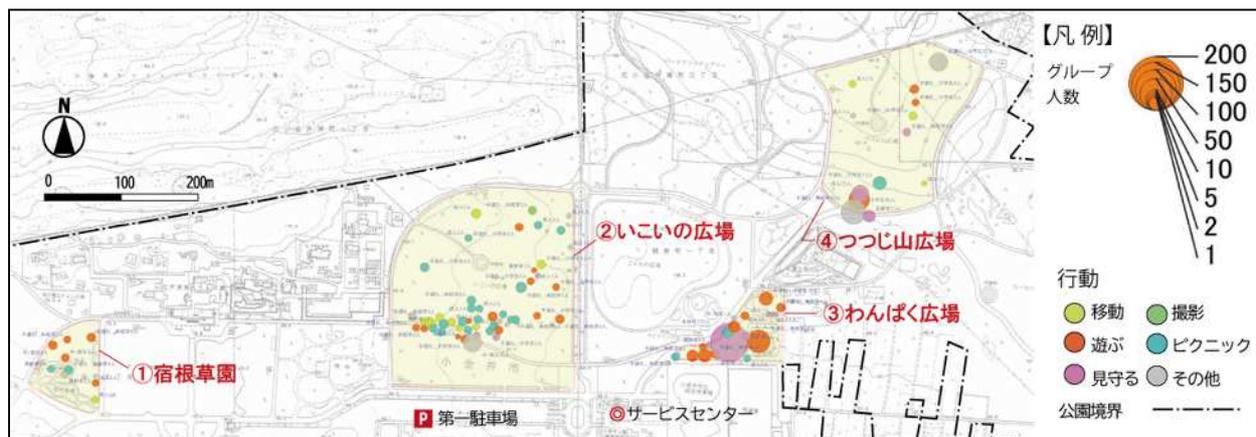


図-2 2021年12月(休日)の来園者行動調査の結果

4. 2023年の来園者行動調査の比較

約3.3haという広さにも関わらず、利用が局所的で広場全体が利用されていない④つつじ山広場で、公園イベントが開催できるようになった2021年度より、地元キッチンカー、編み物や工作などのアーティストワークショップが展開するイベントを繰り返し実施し、その際にピクニックシートを配布するなど、密集しないで過ごせるピクニック利用を推進した。2021年～2023年の間に当該イベントを計6回、来園者行動調査を12回実施した。初回調査から約2年後となる2023年11月の調査結果を図-3に示す。

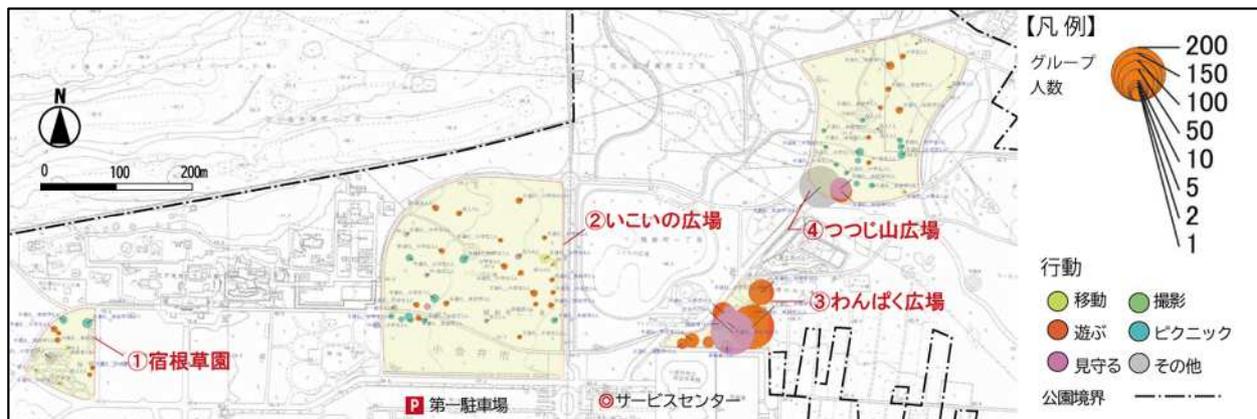


図-3 2023年11月(休日)の来園者行動調査の結果

③わんぱく広場の利用集中、①宿根草園のまばらな利用に変化はない。しかし、②いこいの広場では、2021年時点で南側に集中していた利用が広場全体に分散していた。④つつじ山広場は、大型遊具への局所的な利用は変わらないものの、広場全体に利用が見られ、なかでもピクニック利用が増えている傾向が見られた。

5. まとめ

本調査データだけで成果を確定することは難しいが、利用分散・誘導のアクションが来園者に影響をもたらしたと思われる傾向を把握することができた。今回は、基礎的なデータの取りまとめにとどまったが、来園者行動調査の結果をイベントの開催、植栽管理状況など公園の運営上得られる様々な情報等と重ね合わせ、その関係性を見出すなど、新たな管理運営手法に活用していきたい。